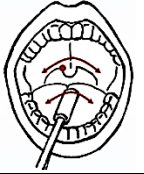

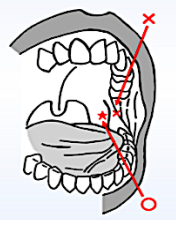
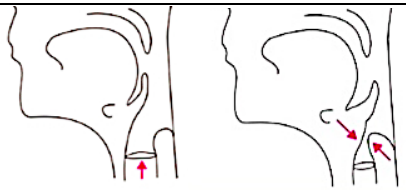
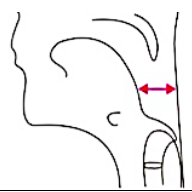
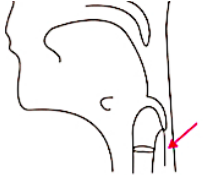


嚥下誘発・嚥下法について

名称と目的または適応	実施方法
<p>□アイスマッサージ 冷圧刺激 嚥下誘発を目的とします。</p>	<p>介助者がアイス棒で舌の奥や、上あごの奥の粘膜に沿って左右方向へ数回触れる。最初手前から軽く触れ、反応を見て、徐々に圧を高めていきます。アイス棒を口の外に出し、つばを飲み込ませます。</p> 
<p>□前頸部徒手刺激 嚥下誘発を目的とします。</p>	<p>あごを軽く引いてもらい、飲み込むことを求めながら、介助者が喉仏から下あごの下面にかけて指で上下に摩擦刺激を繰り返す。</p> 
<p>□K-point 刺激法 嚥下誘発を目的とします。 偽性球麻痺患者が適応となります。 摂食中に動きが停止する方や、開口障害がなく送り込みや嚥下反射が起こりにくい方が対象です。</p>	<p>介助者が親知らずあたりのやや後方の内側を軽く触わり、圧力をかけて刺激します。口腔ケアの後、綿棒などを用いて行います。食物が口腔内に残った状態で動きが止まったら、アイス棒やスプーンで刺激することもあります。</p> 
<p>□嚥下の意識化 水分をむせる、噛むことが不十分、食物の送り込みと嚥下反射のタイミングが悪い場合が適応です。</p>	<p>口の中の食物の位置や左右で食べるリズム、食物の動きを意識してごっくんと飲み込んでみてください。</p>
<p>□丸呑み嚥下 食物の早期咽頭侵入による誤嚥が適応</p>	<p>食べものの塊ができるまでの間は口の中に食べものを保持することを意識していただきます。</p>
<p>□息こらえ嚥下 嚥下直前や嚥下中のむせや誤嚥</p>	<p>鼻から息を吸い、そのまま呼吸を止めてください。そのまま飲み込みます。飲み込んだ後、「はっ」と息を吐いてください。咳をするように強く吐いてもよいです。</p> 
<p>□努力嚥下（舌根押し下げ嚥下法） 食物の咽頭への送り込み、舌根部の筋力低下、咽頭機能不全による咽頭残留、喉頭侵入が適応となります。</p>	<p>喉の筋肉、特に舌の奥の方に力を入れ押し上げるようにしながら飲み込みましょう。強く飲み込みましょう。血圧上昇に注意しましょう。咽頭食道接合部に障害がある場合禁忌です。</p> 
<p>□メンデルソン手技 舌骨、喉頭を挙上させる筋群が弱く、挙上距離・挙上時間が短いことによる喉頭残留や誤嚥が適応となります。</p>	<p>喉頭挙上と咽頭収縮を高めたところで止め、喉頭の圧を高め、上食道括約筋を弛緩させる。「『ごっくん』の『っく』のところ)で飲み込みを一時停止してください。力を抜いて「はっ」と吐いてください。</p> 
<p>□複数回嚥下 咽頭残留が適応です。</p>	<p>食べ物一口につき複数回飲み込んでいただきます。</p>
<p>□追加嚥下 咽頭残留が適応です。</p>	<p>少量の液体やゼリー類を介助者に食べさせてもらい、嚥下反射を起こします。</p>
<p>□交互嚥下 咽頭残留が適応です。</p>	<p>介助者に物性の異なる物を交互に口に入れてもらいます。</p>

